

テキサス政治文化の変容に見る「メキシコ人問題」 ——1910年代の人種の政治とアメリカ化における「他者」の創造

三 浦 順 子

Summary

The phrase “the Mexican Problem” was invented in Texas during turn of the twentieth century, and it spread throughout the American political and social cultures through the 1910s and 1920s. The purpose of this paper is to investigate the creation of “the Mexican Problem” by focusing on the movement of changing social order in Texas during the 1910s. Since the turn of the twentieth century, Texas faced drastic social changes in its social, political, and economic structures. The rise of the political career of James E. Ferguson, governor of Texas, from 1914 to the middle of 1917 was seen as a symbol of those changes. Ferguson stated the importance of the Farming in Texas development and claimed to turn sharecroppers into independent capitalists. Also, he left the topic of prohibition out of political account and placed breweries that were mainly operated by German Americans in Texas urban areas, turning them into an industry that significantly contributed to the state’s economic resources. On the other hand, Mexicans were treated as cheap laborers and temporary commuters working in Texas. Their numbers were huge, but they had limited functions as members of society. World War I institutionalized those Mexicans positioned in Texas during their Americanization program, and eventually they were spread throughout the entire country. Mexicans were identified and problematized, which had nothing to do with racial integration with Whites or their assimilation as immigrants; rather, it was a question of socially locating them as illegitimate citizens of American society.

はじめに

1910年代、とりわけ第一次大戦を経た1920年代以降、テキサスを中心に高まる「メキシコ人問題 (The Mexican Problem)」という議論が、全国的に浸透していった。¹⁾ 例えば、1926年オハイオ州クリーブランド (Cleveland) で開催された第53回全国社会福祉会議 (the National Conference of Social Work) の年次大会で、社会経済学者マックス・S・ハンドマン (Max S. Handman) は、「メキシコ人問題」に関して次のように報告している。

ドイツやアイルランド、スカンジナビア地方からの移民は、農業労働者 (farm laborers) としてテキサス社会に足を踏み入れ、自営農民 (farmers) として定着した。これら旧来の移民と昨今のメキシコ人移民の相違点は、彼らが農業労働者として参入

¹⁾ 「メキシコ人問題」を取り上げる代表的な論考として、以下があげられる。Carey McWilliams, *North from Mexico: The Spanish Speaking People of the United States* (New York: Greenwood Press, 1968, c1948).

しそのままメキシカンとして定着する点にあり、この性質は他のアメリカ人には見られない特殊なものである…また、南部的な認識が主流のテキサスにおいて、メキシカンはニグロと白人との間にカラーの濃淡をもたらし、その結果混乱を生じさせる。それは、かれらがニグロと同等の社会的地位を拒むからだ。²⁾

上記引用に見るように、「メキシコ人問題」の立てられ方に顕著に見えるのは、メキシカン³⁾がテキサス社会、ひいてはアメリカ社会において、自営農民とは区別された労働者とされる点、そして黒人と白人との間の人種的規定が不明瞭な存在と位置付けられている点である。このようにメキシカンの存在を社会問題と位置付ける議論は、当時アメリカでメキシコ出自の人口を最も多く抱えるテキサスを中心に20世紀初頭からあらわれていた。⁴⁾

メキシカンとアングロすなわち白人テキサス市民との関係を、人種ならびに階級秩序の歴史の変容に沿って解釈するデヴィッド・モンテハノー (David Montejano) は、「メキシコ人問題」とは人種の統合や移民の同化をめぐる議論ではなく、社会の内側に他者としてメキシカンを位置付けようとする議論であり、それはテキサスを中心とした当時の一般認識を投影し、全国的に普及していったとまとめている。つまり、同時期の新たな政治、経済の展開において、人種的に白人に統合されることも、移民として社会に同化されることもなく、メキシカンを安価な労働力に留めおくことが、テキサス、ひいてはアメリカにおける社会秩序の構成において必要不可欠な一部を担っていたと論じる。⁵⁾ しかし、人種とも移民の同化とも異なる方法でメキシカンを位置付けることが、当時のテキサスにおいて何故必要とされたのかという点に関しては、上記の議論をもってしても依然疑問を残している。このことは、1920年代以降も継続してメキシカンが社会問題化されながらも、必要不可欠な低賃金労働力の需要に応え、数的には増加の一途をたどってゆくという歴史的展開に照らし合わせ検討を要する論点を含んでいるだろう。⁶⁾

そもそも人種、そして移民の同化の問題は当時のテキサスにおいてどのように論じられていたのだろうか。そして、なぜメキシカンがそれらとは異なる論理で社会問題化していったのか。「メキシコ人問題」に限らず、同時期アメリカ各地では、多様な「社会問題」が噴出していた。それらは、急激な経済発展のもと変容する状況下で、諸個人間の関係性にお

²⁾ Max S. Handman, "The Mexican Immigrant in Texas," *Proceedings of the National Conference of Social Work at the Fifty-Third Annual Session* (Chicago: University of Chicago Press, 1926): 334-36.

³⁾ 本稿では、「メキシカン」という表現を、アメリカ市民権の有無や階級、肌の色を問わず、一時滞在も含めアメリカにいるメキシコ出自の者の総称として使用する。議論中、移民政策上の位置付けに重点を置く場合は「メキシコ人移民」、アメリカ市民権を有する点を明示する場合は「メキシコ系アメリカ人」という表現を使用する。

⁴⁾ 例えば、以下を参照。Victor S. Clark, *Mexican Labor in the United States*, Bulletin of the Bureau of Labor 17, no. 78 (Washington D.C.: U.S. Department of Labor, 1908); William Leonard, "Where Both Bullets and Ballots are Dangerous," *Survey* 28 (October 1916): 86-87.

⁵⁾ David Montejano, *Anglos and Mexicans in the Making of Texas, 1836-1986* (Austin: University of Texas Press, 1987), 179-96.

⁶⁾ 1920年代には、1910年代のおおよそ4倍にもものぼるメキシコ人移民がアメリカに渡っており、その数は1920年代の10年間で50万人に到達するほどであったとも言われる。同時期の急激なメキシコ人移民の増加は、以下を参照。Leo Grebler, Joan Moore, and Ralph Guzmán, *The Mexican American People* (New York: Free Press, 1970), 64-65.

ける権利や市民的地位、国家の役割や民主主義の理念などを問い直そうとする人びとが、新たなより良い秩序を求める運動を模索し、その秩序が問われる場として「社会」という領域が意識され始めたことを意味していた。⁷⁾ それら運動が社会の領域を捉える際に着目したのは主として多様性が顕在化する都市部であったが、テキサスの場合は、依然として住民の大多数が日常生活をおくる農村部の変化に問題が見いだされていった。その際、メキシカンが社会の内に「問題」として組み入れることが何故求められ、それはどのように可能となったのであろうか。また、テキサスにおいては、メキシカンを社会問題化することで、どのような秩序を求めたのだろうか。

上記の問いに対し本稿では、1910年代のテキサスにおける経済発展上で論じられた政治文化の「改革」という側面に着目して、「メキシコ人問題」の形成過程を検討する。1節では、テキサスにおける「社会問題」の発見を、1914年から2期にわたり州知事を務め、農業をテキサスの経済発展の要とし、それを担う農民像の改編を通じて州政治文化の変革を目指したファーガソンの政策に着目して論じる。2節では、ファーガソンの進める政治ならびに経済構造の改革を、人種枠組の再編成という視点から検討する。ここでは、同時に進められた州独自の米墨国境警備体制の強化という方策と政治文化の改革とを結び付け論じたい。続く3節では、メキシカンの社会からの排除が、第一次大戦下の社会統制の一環として展開するアメリカ化のプロセスを通じて、制度的に定着してゆく過程を分析する。

1. ファーガソンの登場に見る州政治の「改革」

1913年11月、政治経験の無い地方の銀行家であったジェームズ・E・ファーガソン (James E. Ferguson) が、突如としてテキサス州知事選に名乗りを上げた。州都オースティン (Austin) から62マイル離れた田舎町templ (Temple) で始まったファーガソンの選挙キャンペーンに対する当初の注目度は低かった。ところが、1915年1月19日、ファーガソンは知事官邸に居を移し、政治家としての第一歩を異例にも州知事職からスタートさせることとなる。

19世紀末以降、テキサスは急激な経済発展の時期にあった。この発展は同時に、既存の社会を構成する住民内部の階級的な上昇と下落を浮き彫りにした。東部資本の参入や鉄道網の拡大が牽引する市場経済の隆盛を受けて、土地に根差した小規模の牧畜や農場経営を主としたテキサスの基幹産業は、より商業利益を追求する形態に移行していった。⁸⁾ それは同時に、小規模な自営農民が、商業志向の大規模農場経営の台頭に淘汰されていくことも意味し、自営農民から小作農になり下がる白人下層は分厚くなっていった。かれらの

⁷⁾ 20世紀初頭にアメリカ全体で見られる社会秩序の変容やそれを模索する多様な運動の展開に関しては、以下の議論を参照した。Robert H. Wiebe, *The Search for Order, 1877-1920* (New York: Hill and Wang, 1967); Richard Hofstadter, *The Age of Reform: From Bryan to F.D.R.* (New York: Alfred A. Knopf, 1955); 中野耕太郎『20世紀アメリカ国民秩序の形成』(名古屋大学出版会、2015年)。

⁸⁾ *Texas Almanac and State Industrial Guide for 1927* (Dallas: Dallas Morning News, 1927), 60; Neil Foley, *The White Scourge: Mexicans, Blacks, and Poor Whites in Texas Cotton Culture* (Berkeley: University of California Press, 1997), 28; Montejano, *Anglos and Mexicans in the Making of Texas*, 34-41.

不満は19世紀末にはポピュリズム運動に現れたが、その気運は白人内の階級格差是正につながるような政治的成功を見ることなく収束していた。⁹⁾ その大部分が今や小作農かそれと同等の労働者となっていた白人住民は、かつては人種の特権を振りかざし踏み従えていた黒人やメキシカンとも競合を余儀なくされる状況に立たされていたのである。階級格差と人種間の緊張は、経済発展と並行して深刻化の方向へ進んでいた。¹⁰⁾

他方で、この流れに乗じ経済的に上昇し政治的に台頭する新興の中産階級も現れ始めた。ファーガソンの出世は、そのような白人の新興中産階級のモデルのようでもあった。1871年8月31日、ファーガソンはテキサス州ベル郡サラド (Salado) で小規模な農場を切り盛りする両親の元に生まれたが、幼少の頃に父親が亡くなると、家庭の経済状況は悪化した。16歳になると家族から離れ、25歳でテキサスに戻るまで、鉄道建設労働者やホテルの給仕、製鉄加工工場での日雇い労働で食いつなぎながらコロラド、カリフォルニアと渡り歩いた。¹¹⁾ テキサスに戻った後は法律を学ぶなどしていたが、結婚を機に独自のビジネスを開始した。地元農民を対象にベルトン郡で開業した小さな銀行を足がかりに、32歳になるとテンプルに拠点を移して規模を拡大してゆき、短期間のうちに地元の名士としての地位を築いた。¹²⁾ ファーガソンの軌跡は、農民出身のごく普通の男が、労働者を経てたたき上げで財を成し社会的地位を獲得してゆく、新しい時代の成功モデルとして脚光を浴びたのだった。¹³⁾

知事選出馬を表明した初期の段階から、選挙演説の冒頭では決まって自己を「農民出身の生粋のテクサン (Texan)」と紹介したが、そのような自己の位置付けはファーガソンの想定外の勝利につながる重要な意味を帯びていた。¹⁴⁾ ファーガソンの選挙キャンペーンは、都市部を避けて地方の農村部を中心に展開された。各地での演説やポスター、地元新聞からのインタビューには、あえて文法的な誤りを含んだ無学で貧しい農民の口調を用い、自

⁹⁾ テキサスにおけるポピュリズムの展開とその後の影響に関しては、以下を参照。Gregg Cantrell and Scott Barton, "Texas Populist and the Failure of Biracial Politics," *Journal of Southern History* 55, no. 4 (November 1989): 659-92; Gregg Cantrell and Kristopher Paschal, "Texas Populism at High Tide: Jerome C. Kearby and the Case of the Sixth Congressional District, 1894," *Southwestern Historical Quarterly* 109, no. 1 (July 2005): 30-70; Lawrence Goodwyn, *Democratic Promise: The Populist Moment in America* (New York: Oxford University Press, 1976); Alwyn Barr, *Reconstruction to Reform: Texas Politics, 1876-1906* (Dallas: Southern Methodist University Press, 1971).

¹⁰⁾ Foley, *White Scourge*.

¹¹⁾ Ouida Ferguson Nalle, *The Fergusons of Texas or Two Governors for the Price of One: A Biography of James Edward Ferguson and his Wife, Miriam Amanda Ferguson, ex-Governor of the State of Texas* (San Antonio: The Naylor Company, 1946), 15-20.

¹²⁾ Ibid., 63.

¹³⁾ "Texas New Governor is a Native Son Lone Star State," *Temple Daily Telegram*, 2 August 1914.

¹⁴⁾ *A Draft of Platform*, 13 November 1913, Box3P45, Ferguson Collection, Center for American History, University of Texas, Austin (hereafter cited as Ferguson Collection). テクサン (Texan) は、ファーガソンの言説の中で頻繁に用いられる、テキサス住民を指す用語である。この用語の定義が明示されることはないが、それが人種的に社会通念上の白人市民のみを指すことは、文脈から察し得る。ただし、それは法制度上の「白人」とは必ずしも同一ではないため、メキシカンは含まれていないと考えられる。

らを小作農の同類として演出した。¹⁵⁾ これは、1914年当時、テキサスの白人人口のうち、小作農に従事する労働者が全体の約7割を占めていた事実を踏まえると、戦略的なキャンペーンであったといえる。¹⁶⁾ 政治とは縁遠く、経済的にも豊かではない白人有権者からの支持を取り付けることは、基盤も後ろ盾もないファーガソンが選挙戦に勝利するための重要な鍵となっていた。

貧しい白人層を有権者として意識した選挙キャンペーンがファーガソンの勝利につながったことは、テキサスの政治文化に生じていた変化を浮き彫りにするものであった。合衆国への併合以降、テキサスでは一貫して民主党 (Democratic Party) の一党独裁体制が州政治文化として維持されていた。しかし、南北戦争や19世紀末のポピュリズムの隆盛を経て、その盤石の民主党支配にはほころびが見え始めており、階級的、人種的といった重層的な利害対立への対応が政治文化に多大な影響を及ぼしていた。ファーガソン出馬時も、実質的には民主党予備選挙が本戦に代わって知事選が進められていたように、州政治体制における民主党独裁は、形骸的には存続してはいた。ただし、対立候補の擁立には及ばず、共和党 (Republican Party)、人民党 (People's Party)、社会党 (Socialist Party) への支持も高まっており、支持基盤の維持そして新たな支持層の獲得のため、民主党内部からも既存の政治体質からの脱却を求める声が出始めていたのである。¹⁷⁾

選挙出馬の表明と同時に提示された政治綱領の冒頭で、ファーガソンは自身の選挙戦の意義を以下のように述べている。

私はテキサス州知事への立候補を表明しているが、これによって議論そして概ね批判が巻き起こるであろうことを想定していないわけではない。ここ何年間にもわたり、政治的連続とも呼べるルールに沿って知事が選出されることが、すっかり慣習となってきた。換言するならば、われわれは知事となる者の資格を、政治経験の長さやこれまでの当選回数に従って決定してきたのだ。同様のルールは、知事に限らずその他の公務の任命において踏襲されている。…古い慣習のもとで進められる州政治が経済的そしてビジネス思考に基づいて執り行われてきていたのなら、私の出馬を求める声があらわれることなどなかったはずだ。…テキサスの民主党支持の大部分の人びとが、私の出馬に賛同を寄せるであろうものと期待している。¹⁸⁾

ファーガソンが政治綱領で第一に強調したのは、国家規模、そして国際的に拡大変容する経済構造の中でテキサスが発展するため、州の政治文化にビジネス指向を涵養すること

¹⁵⁾ “Just an Ordinary Texas Boy,” *San Antonio Light*, 17 January 1915.

¹⁶⁾ Jack Elton Keever, “Jim Ferguson and the Press, 1913-1917,” (M.A. Thesis, University of Texas at Austin, 1965), 43-49.

¹⁷⁾ テキサスの政党政治に関しては以下を参照。Alwyn Barr, *Reconstruction to Reform: Texas Politics, 1876-1906* (Austin: University of Texas Press, 1976); Norman D. Brown, *Hood, Bonnet, and Little Brown Jug: Texas Politics, 1921-1928* (College Station: Texas A&M University Press, 1984).

¹⁸⁾ *Ferguson Platform, Pamphlet of Business Plank, James E. Ferguson of Temple, Bell County's Candidate for Governor*, 16 November 1913, Box3P45, Ferguson Collection.

であった。¹⁹⁾ 1914年7月には、州知事選挙戦はファーガソンを含め3人の候補者に絞られていたが、他2名が政治綱領で争点として掲げていたのは禁酒法をめぐる議論であった。禁酒法推進派から名乗りをあげるカレン・F・トマス (Cullen F. Thomas)、そして禁酒法制度化には賛成しつつ強硬な姿勢を明示しないことでトマスとの差異化を図るトマス・H・ボール (Thomas H. Ball) の2者は、温度差はあるものの禁酒法をめぐる議論を州政策の最重要事項として掲げ、それ以外は大筋既存の民主党州政治体制から逸脱しない政治方針を掲げていた。対してファーガソンは、禁酒法を州政治問題として扱わない方針を示し、他の候補者との明確な差別化を図った。民主党州政治体制に真っ向から対峙することがファーガソンの意図ではなかったが、その姿勢は他の候補者とも、既存の州政治の慣習とも一線を画すものであった。²⁰⁾

ビジネスを基盤とした新しい政治に向け、州政策の具体的課題としてファーガソンが提起したのは、土地所有形態にかかわる改革であった。

おそらく最も重要な問題は、土地保有権と地代に関する問題である。歴史を振り返ると、国家の衰退は概ねこれら問題の帰結として生じてきた。… 今後は作物価格の高騰が見込まれるが、それに伴い、上昇する地代の支払いに困窮する小作農の状態も改善に向かうべきである。… 私が知事に当选したならば、地代を収穫の3分の1に均等化する法律の制定を第一に進めたい… このような法律はテキサスの発展において必要不可欠なのだ。またこれは、良い社会を形成するための州政治の存続自体を左右する問題なのである。²¹⁾

ファーガソンは、テキサスの発展のためには一部の特権階級ではなく、小作農を含めた農民が担う農業を、成長する産業の形態に変容させることが要となると力説した。²²⁾ 同様にビジネス指向の経済発展という展望のもと、既存の民主党州政治内部で対立軸とされていた禁酒法への賛否をめぐる議論から脱却し、アルコールの醸造・販売を、「密造業者 (Bootlegger)」による不道德で非社会的な生業ではなく、州経済の発展に貢献する重要な

¹⁹⁾ *Who should be Elected Governor of Texas, James E. Ferguson of Temple*, n.d. October 1913, Box3P45, Ferguson Collection; *Ferguson Platform, Pamphlet of Business Plank, James E. Ferguson of Temple, Bell County's Candidate for Governor*, 16 November 1913, Box3P45, Ferguson Collection.

²⁰⁾ 禁酒法を扱わずそれ以外の諸問題を表面化させて問うファーガソンに対して、既存の州政治体制内の禁酒法賛成・反対両派の陣営から賛同と反発の両方が寄せられた。例えば以下を参照。Letter from Jno F. Onion, Law Officer, San Antonio to James E. Ferguson, Temple, 24 April 1914, Box3P46, Ferguson Collection; Letter From W. Beverley West, M.D. Fort Worth, to James E. Ferguson, Temple, 18 May 1914, Box3P46, Ferguson Collection.

²¹⁾ *Ferguson Platform, Pamphlet of Business Plank, James E. Ferguson of Temple, Bell County's Candidate for Governor*, 16 November 1913, Box3P45, Ferguson Collection.

²²⁾ ファーガソンの政策にみる資本主義的経済発展における市場型農業の重視という解釈は、以下を参照。Don H. Biggers, *Our Sacred Monkeys or Twenty Years of Jim and Other Jams the Outstanding Goat Gland Specialist of Texas Politics* (Brownwood: The Jones Printing, 1933), 20-22; Ralph W. Steen, "The Political Career of James E. Ferguson, 1914-1917," (M.A. Thesis, University of Texas at Austin, 1929).

産業であると見なしたのであった。²³⁾

小作農を主とした白人下層への対応、そして禁酒法問題の棚上げを示したファーガソンの政策は、テキサスの政治文化の争点を大きく転換させたと言える。その転換はそれまで政治の担い手とみなされていなかった有権者層を白人農民や労働者に見いだしもしたが、同時に既存の民主党政治基盤からの強い反発も伴った。ファーガソンは1916年の州知事再選を果たしたが、2期目の中盤に入ると州財政の使途不明金問題や横領、州政治を通じた私財の蓄積といった嫌疑をかけられ、州議会の決定により罷免される。翌1918年には再度知事選に打って出るが、公職からの追放という議会の決定に阻まれ再選は果たされなかった。²⁴⁾ だが、彼が強調した諸問題は、ファーガソン失墜後に知事となった民主党主流派を支持基盤とするウィリアム・P・ホビー (William P. Hobby) 以降の州政治にも引き継がれていった。²⁵⁾ 1910年代から30年代にかけてのテキサスの政治文化が「ファーガソンの時代 (Ferguson Era)」と括られるように、彼の政策やその政治思想は当時のテキサスの政治文化の象徴として以後語り継がれていくこととなる。²⁶⁾

2. 「改革」における人種の再編成

ファーガソンの台頭は、主に白人小作農や新興の中産階級といった、既存の政治体制の中に位置を見いだせずにいた層からの支持を獲得し、テキサス政治文化を大きく変えてゆく契機となった。しかし、その政策は白人内の階級や移民エスニック集団間の差異や対立といった点も浮き彫りにしてゆくこととなる。1910年代中頃のテキサスは、もはや一様な白人住民が多数を占める状況ではなくなっていた。中でもドイツ系住民の社会的プレゼンスは、アルコール蒸留産業の担い手として都市発展の一翼を担うまでになっていた。²⁷⁾ 大部分が南北戦争以前にテキサスに移住した住民で構成されたドイツ系は、独自の相互扶助組織を発達させその連帯も強固であった。数的には当時の州人口の1割を占めるほどに

²³⁾ “Tribute by Pro,” *Temple Mirror*, 2 April 1914.

²⁴⁾ 州議会にはファーガソンを弾劾する特別会議が設けられ、ファーガソンの罷免が決定された。複数の嫌疑に対し決定的な証拠はあがらず、ファーガソンが法的な罪に問われる事は無かったが、会議の模様な連日新聞紙面を賑わした。例えば以下を参照。“The Charges against Gov. Ferguson,” *The Texas Weekly Review*, 17 February 1917; “Governor Remained Silent and the Hearing Went On,” *The Temple Daily Telegram* 24 August 1917; “Governor Explains How Fund was Spent,” *Dallas Morning News*, 11 Mar 1918; “Veto Message of Gov. Ferguson,” *The Wage Earner*, 15 June 1917. また、弾劾から罷免までの流れは以下を参照。Ferguson Nalle, *The Fergusons of Texas*, 104-43.

²⁵⁾ ホビーの政治綱領には、小作農の地代に関する方針や都市の労働者問題、そして州全体で戦時生産に貢献するよう農業を主とした産業の効率的な発展のための政策が明示されている。*Governor Hobby's Platform*, 5 January 1918, Box3H3, Hobby Papers, Center for American History, University of Texas, Austin (hereafter cited as Hobby Papers).

²⁶⁾ Ross Phares, *The Governors of Texas* (Gretna, Louisiana: Pelican Publishing CO., 1976), 131-33; T.R. Fehrenbach, *Lone Star: A History of Texas and the Texans* (New York: Collier Books, 1968), 636-37.

²⁷⁾ *Texas Almanac and State Industrial Guide for 1927*, 61.

過ぎなかったが、商業や教育、政治の分野において安定した地位を築き、言語や文化の違いを維持しつつも、白人社会の内部に組み込まれていた。²⁸⁾ また、1910年以降革命の影響によるメキシコからの移民増加は、さらなる変容をもたらし、州全体の白人総人口のおおよそ半数が、移民と既存のアメリカ市民とを含めたメキシコ出自で占められるまでになっていた。²⁹⁾ このような人口動態の変化は、旧来のテキサス社会における白人の枠組に大きな揺さぶりをかけていたのである。ファーガソンの「改革」は、経済発展を支えるテキサス州政治の担い手は誰かという問題をめぐって、住民の主体となる白人を再度規定してゆくことも意味していたのだ。

ここで、改めてファーガソンの提唱するビジネス指向の経済発展という課題が州政治の文脈でどのように理解されていたのかを検討すると、それが必ずしも白人小作農の経済的状况に対する憂慮から派生してはいなかったことが明らかになる。ファーガソンが何よりも強調するのは、農業にみる階級格差の是正では決してなく、国家規模の需要を支えるに十分な農業生産を上げ得る経済構造への変化であることが強調されているのだ。ファーガソンが1915年12月にシカゴで行った演説では、テキサスにおける既存の農業を資本主義的な産業に高めるという政治課題の重要性を、次のように訴えている。

テキサスは未成熟な土地と自然資源を有する帝国である。…テキサスは23万人もの小作農を有し、その数は1890年以來4万人も増加している。現在州政治が直面しているのは、われわれが保有する潜在的な耕地となる広大な土地を、独立した所有者に委ねるという最も重要な課題である。…そのために州のあらゆる政策はこの問題を最も重要な懸案として扱わなければならないのだ。…テキサスの小作農に必要なのは、適正な利率での長期的な融資を可能とする財政支援なのである。³⁰⁾

階級格差を是正して小作農を経済的に引き上げようとする点のみに重点をおいたならば、ファーガソンの政策は資本家や農業経営者からの反感を受け、階級的な緊張関係をよ

²⁸⁾ テキサスにおけるドイツ系コミュニティの発展に関しては以下を参照。Gunter Moltmann, “Roots in Germany: Immigration and Acculturation of German-Americans,” in *Eagle in the New World: German Immigration to Texas and America*, eds. Theodore Gish and Richard Spuler (College Station: Texas A&M University Press, 1986), 3-25.

²⁹⁾ *Texas Almanac and State Industrial Guide for 1927*, 58-62. 1848年の米墨間で締結されたグアダループ・イダルゴ条約(Treaty of Guadalupe Hidalgo)にもとづき、メキシコからアメリカに編入された土地に留まるメキシコ人に対しては1790年帰化法の規定と照らし合わせ「白人」としてアメリカ市民権が付与された。この法的措置に基づき、以降メキシコ人は、アメリカに帰化可能という制度上の意味において「白人」と規定されていた。法的な人種規定に関しては以下を参照。David G. Gutiérrez, *Walls and Mirrors: Mexican Americans, Mexican Immigrants, and the Politics of Ethnicity* (Berkeley: University of California Press, 1995), 17-18; Richard Griswold del Castillo, *The Treaty of Guadalupe Hidalgo: A Legacy of Conflict* (Norman: University of Oklahoma Press, 1990), 62-72; Martha Menchaca, *Recovering History, Constructing Race: The Indian, Black, and White Roots of Mexican Americans* (Austin: University of Texas Press, 2001), 215-76.

³⁰⁾ *Speech of James Edward Ferguson, Governor of Texas, Chicago*, 1 December 1915, Box3P45, Ferguson Collection.

り強調することとなっただろう。事実、ファーガソン自身も知事職と並行して銀行経営に携わる資本家、そしてテンプル近郊に大規模な農場を有する経営者としての側面を持っており、経済的状况においては小作農と利害を共有しているとは言いがたかった。³¹⁾ ファーガソンは、小作農への配慮という措置が必要なのは、階級問題を論じるためではなく、州経済の主軸である農業の発展を促進するためであり、それにより資本家や農場経営者が損益を被ることは決してないと強調した。1918年テキサス州クリバーン (Cleburne) で行った演説では、「100エーカーからの収穫のわずか1割分を小作農に貸し与えさえすれば、テキサスにおける未開の地は全て開墾され、生産量を飛躍的に増加させることができる」のであり、資金の無駄という声に対しては「戦時国債 (Liberty Bond) 購入資金の30分の1にも満たない支出で賄え」、資本家や農場経営者にとっては「18ヶ月後には2倍に増加した生産力を見返りとして得られる」またとない融資のチャンスであると説明付けたのだった。³²⁾ ファーガソンは、階級格差を巧妙に扱い白人下層からの支持を獲得したが、そのビジネス指向は同時に資本家や農業経営者の利益を強調するものであり、経済発展という大目的を掲げることで双方の利害対立を回避し、白人間の階級格差を争点としない方法を見いだしていった。

また、禁酒法の議論を棚上げにしたファーガソンの方針は、蒸留酒産業を担うドイツ系からの支持を得ることにつながった。それまで都市中心に共和党支持を表明していたドイツ系コミュニティから獲得した支持は、ファーガソンの当選ならびに2期にわたる政治運営の重要な基盤となっていたのである。³³⁾ これに対し、民主党主流層は、迫り来る戦争という状況下で「ドイツ系アメリカ人が目論んでいるアメリカ社会のドイツ化を支援している」として、ファーガソンとドイツ系との非愛国的な癒着を吹聴し、格好の批判題材とした。³⁴⁾ そのような誹謗中傷を受けながらも、ファーガソンは、禁酒法問題を政治の議論から排除して蒸留酒生産をテキサスの経済発展を支える一産業と位置付け、それに従事するドイツ系を、「南北戦争以前からテキサスの発展を支えており、文化的な特徴を別にしても生粋のテキサンであることには違いない」として白人の内側に位置付けた。³⁵⁾

他方メキシカン、ファーガソンの描く経済発展の担い手とみなされず、また、ドイツ系のようにテキサンとして白人の内側にも位置付けられていなかった。たしかに、市場型

³¹⁾ ファーガソン自身が地主であるという点は、出馬当初から批判の対象ともされていた。Letter from Mrs Weaver, Waco to James E. Ferguson, 16 June 1914, Box3P45, Ferguson Collection. 当時テキサス共産党のリーダー的存在であったトム・ヒッキー (Tom Hickey) は、ファーガソンの小作農優遇措置が、結局は既存の地主しか恩恵に預かれないかきまぐれと痛烈に批判している。以下を参照。Foley, *White Scourge*, 92-117.

³²⁾ *Speech of James E. Ferguson, Cleburne, Texas*, 17 April 1918, Box3H4, Hobby Papers.

³³⁾ 都市部におけるドイツ系からの支持は、ファーガソンの政治活動にとって重要な経済的後盾となっていた。Fergusonism Down to Date: A Story in Sixth Chapters Compiled from the Records (Austin: n.a., 1932), Center for American History, University of Texas, Austin.

³⁴⁾ *German American Alliance Made Plans to Control Texas; Was 'Interested' in Jas. E. Ferguson*, Hobby Campaign Committee, n.d. 1918, BoxOD1199, Ferguson Collection.

³⁵⁾ *Speech of Governor James E. Ferguson at the Unveiling of a Confederate Monument in Llano, Texas*, 22 February 1916, T973.765, Center for American History, University of Texas, Austin.

農業の展開において、大量の安価な労働力は必要不可欠な要素であった。³⁶⁾ ファーガソンはその労働を、資本家と利害を共有し得る白人小作農ではなく、テキサス市民に相応しい農民像とは区別されるメキシカンに負わせることで、社会の統制と経済発展との融合を描いたのである。ここで効果的に用いられたのは、メキシカンを白人市民と区別される、一時的滞在者と見なす認識を浸透させることであった。そのためには、メキシカンがなぜアメリカ人にはならない／なれないのかを規定し論理立てることが必要であったが、米墨国境線という可視的な地理状況から、ファーガソンはそのような言説を編み出していった。

1915年5月初旬、対岸にメキシコを臨むリオグランデ河岸地域に、特別予算3千ドルを追加計上し、州警備隊 (Texas Rangers) を増員配置する決定がテキサス州議会を通過し、6月には増員された警備隊が、ブラウンズビル (Brownsville)、ラレド (Laredo)、コーパス・クリスティ (Corpus Christi) を拠点に編成された。³⁷⁾ 指揮を執るファーガソンは、「日々国境を越えてテキサスに渡ってくるメキシカンによる略奪や狼藉行為から、テクサンの生活を守る」という州警備隊の存在意義を強調し、州政府独自の米墨国境地帯の警備強化を進めた。³⁸⁾ この政策は、白人入植地をインディアンやメキシカンの襲撃から守る警備隊という、歴史的に根付いたイメージと結びつくものであり、メキシカンが地域社会の平和を脅かす存在であると強く印象付けるのに効果的であった。³⁹⁾

しかし、この時期の米墨国境は州レベルを超えた、米墨2国間の緊張関係下にあった。第一次大戦下という国際関係の文脈において、革命下で不安定なメキシコとの関係性は、当時のウィルソン政権にとって、民主主義、民族自決、自己統治といった外交理念が国際的に試される重要な試金石となっていた。⁴⁰⁾ 外交問題として慎重な対応が求められるウィルソン政権は、ファーガソン率いるテキサス州議会からの要請に対し、フレデリック・ファーストン将軍 (General Frederick Funston) 率いる2万に満たない規模の部隊を、1,745マイルにもなる米墨国境警備に配置するに留めた。またその任務は、陸軍部隊として国境地帯の中立が脅かされる場合のみ軍事力を行使することとされ、州警備隊が扱う国境地域のメキシカンと白人テキサス住民との間の諍いには関与しない方針が徹底された。⁴¹⁾

傍観を続ける連邦政府の対応に不満をつのらせるテキサス州政府は、国家権力に頼らず

³⁶⁾ ファーガソンも農場所有者として、収穫期のみメキシカンおよび黒人を安価な短期労働力として登用することで経営の効率化を図っていた。階級問題を掲げてファーガソン政策を批判するテキサス社会党は、ファーガソンがメキシカンを搾取しているとの指摘を繰り返していた。例えば、以下を参照。“The Fake of Ferguson,” *The Revel*, 11 April 1914.

³⁷⁾ General Order 5, 2 October 1915, Adjutant General's Records, General Correspondence, Texas State Library and Archives.

³⁸⁾ Letter from James E. Ferguson to Woodrow Wilson, 25 February 1915, Box3P45, Ferguson Collection.

³⁹⁾ Américo Paredes, *With His Pistol in His Hand: A Border Ballad and Its Hero* (Austin: University of Texas Press, 2000, c1958), 26-29; Kelly Lytle Hernández, *Migra!: A History of the U.S. Border Patrol* (Berkeley: University of California Press, 2010), 19-22.

⁴⁰⁾ 国際状況における同時期の米墨関係に関しては、以下を参照。西崎文子「ウッドロー・ウィルソンとメキシコ革命——「反米主義」の起源をめぐる一考察」『思想』第1064号(2012年)、118-38頁。

⁴¹⁾ James E. Sandos, *Rebellion in the Borderlands: Anarchism and the Plan of San Diego, 1904-1923* (Norman: University of Oklahoma Press, 1992), 86.

州独自の国境警備体制を整えていった。⁴²⁾ 背景には、メキシコで高まる反アメリカ感情が国境を越えて伝播してくるという、隣接する地理状況に由来した危機感の高まりがあった。その端緒は、1915年2月20日を実行日として、メキシコの一部活動家がテキサス内の協力者と結託し、アメリカ政府に一斉蜂起を仕掛けようとする計画の発覚で明らかになった。⁴³⁾ 「サンディエゴ計画 (Plan de San Diego)」と呼ばれるこの企みは、事前の発覚により現実とならなかったが、その内容は、アメリカにおいて人種差別を受ける黒人やアジア系、インディアンとも連合した一大勢力を形成し、かつてはメキシコ領土であった土地を奪還し「平等と独立」を実現する新政府を樹立しようという過激な内容が含まれていた。⁴⁴⁾ メキシコのモンテレイ (Monterrey) にある刑務所に収監されていた、革命活動家のバシージョ・ラモス (Basillo Ramos) の所持品から見つかったとされる計画の内容を記した書面がどれほど現実的な内容を反映していたのかは疑わしいが、ファーガソンを筆頭にテキサス社会が「メキシカンがテキサスをヤンキーの手から取り戻そう」と企んでいると疑い危機感を高めるには十分であった。⁴⁵⁾

ただし、州警備隊はその活動が州知事の権限下にある組織にすぎず、直接的に国境線上の移民管理を司る権限は有していない。⁴⁶⁾ つまり、その活動はテキサス市民ならびに地域社会の安全を守ることに限られ、その範囲内での犯罪行為に対してのみ取締りが可能であった。それでも、その存在意義を強調するファーガソンの政策は、白人からなるテクサンとメキシカンとの間に、決して交わり合うことのない境界を想定し現実味を帯びさせるという人種をめぐる政治戦略としては有効であった。

ファーガソン期に活発化した州独自の国境管理の政策を通じて、メキシカンは経済的に不可欠な労働力資源として産業発展の筋書きに組み込まれながらも、外部からの脅威というイメージとも結び付けられ、社会から分離されるべき他者として再認識されていった。この時期、国境地域に限らずテキサス全域で、白人住民からのメキシカンに対する排斥感情が高まり、国籍やシティズンシップにかかわらずリンチ行為が頻出した。⁴⁷⁾ このように、ファーガソンの掲げるテキサスの経済発展の指針や、それを担う白人の再規定を通じて、階級的にも、そして移民問題としても白人とは区別されるメキシカンという存在が社会構造の内に見いだされていった。テキサスの新たな経済発展の方針は、既存の人種枠組を補填強化し、他者としての労働者、すなわちメキシカンが白人と切り分けられていることを前提に成立するものであった。

このようなメキシカン像をイメージから一種の社会的存在規定にまで昇華させる契機となったのが、戦争を通じて高まるアメリカ化の機運であった。以下では、州独自の人種の

⁴²⁾ The State of Texas Headquarters Ranger Force, 1 October 1915, Box401.1183, Folder11, Ranger Record, Texas State Library and Archives (hereafter cited as Ranger Record).

⁴³⁾ “Plan of San Diego,” *La Prensa*, 9 and 10 September 1915.

⁴⁴⁾ Juan Gómez-Quiñones, “Plan de San Diego Revived,” *Aztlán* 1 (Spring 1970): 124-30.

⁴⁵⁾ Ferguson Nalle, *The Fergusons of Texas*, 100.

⁴⁶⁾ The State of Texas Headquarters Ranger Force, 1 October 1915, Box401.1183, Folder11, Ranger Record.

⁴⁷⁾ Walter Prescott Webb, *The Texas Rangers; A Century of Frontier Defense* (Austin: University of Texas Press, 1935), 478.

再編成が、国家レベルでの国民化の議論ならびに移民管理の問題と結び付くことで、制度の形を帯びて社会に定着してゆく過程を検討する。

3. 戦時下のアメリカ化を通じたテキサスにおける国民化／人種化

1917年4月、ウィルソン大統領が「民主主義」を掲げ参戦を宣言すると、同年5月14日、テキサスではアメリカの勝利に向けた協力体制の構築を州政治の最重要事項と位置付け、そのための具体的な政策運営機関として州予算から2万5千ドルが計上され、テキサス州防衛委員会 (Texas State Council of Defense) が設置された。⁴⁸⁾ 第2回会議で制定された規約では、委員会の活動が国家防衛委員会 (National Council of Defense) ならびにアメリカ大統領からの要請に準じながら、州レベルでの農業や金融、労働、産業、運送、畜産といった産業部門の戦時生産に取り組むという、大筋の運営指針が定められた。⁴⁹⁾ ただし、連邦政府の直接的な管轄下に置かれるのではなく、州政府が母体となった組織であるため、具体的な委員会の運営においては国家の方策に従う限りにおいて州独自の対応が組まれた。

とりわけ農業生産は、州防衛委員会の活動の中でも重視された部門であり、州全域に配布された広報では、農業部門において戦時生産に積極的に参与することが、国家への忠誠を示すだけでなく、将来的なテキサス産業の発展を占う好機にもなると唱えられた。

農民 (farmer) が、現在直面するような大きな機会を得られた契機が、わが国においてこれまであったためしはない……わが国、そして世界全体が、われわれ (テキサスの) 農民が生産する農作物、養豚、牧畜、養鶏、干し草、あらゆる自然からの生産物を求めているのだ……来期の生産に向けて、テキサスの地に未墾の土地が1エーカーでもあってはならず、一生に一度あるかないかのこの機会に最大限の利益を上げることなしには、農民はそれを悔いることとなるだろう……またそれは同時に愛国的な従軍と同義の行いともなる……従軍することが出来ないのであれば、農村地帯に出向き、戦地に赴く人びとの求めに応じて供給が可能となるよう生産を上げるのだ。⁵⁰⁾

しかし、戦時下の状況を経済発展の好機とするには、それを支えるに十分な労働力の確保が必要不可欠であった。そこでテキサス州政府は州防衛委員会を通じ、1917年5月5日に施行となったばかりの移民法の適用を、米墨国境線上のメキシカンの往来に対しては無

⁴⁸⁾ *Minutes of Texas State Council of Defense*, 10 May 1917, Box2J358, Texas War Record, Texas War Record Collection, Center for American History, University of Texas, Austin (hereafter cited as Texas War Record).

⁴⁹⁾ *Minutes of Texas State Council of Defense*, 18 May 1917, Box2J358, Texas War Record.

⁵⁰⁾ *The Farmer's Opportunity*, Bulletin 11, Texas State Council of Texas, 14 Dec 1917, Box2J355, Texas War Record.

効とするよう連邦政府への働きかけを開始した。⁵¹⁾

バーネット法 (Barnett Bill) として知られる1917年移民法は、アメリカに入国する全ての移民に対し、読み書き能力テストと8ドルの人頭税納入を課すものであり、この規定は米墨国境線上でのメキシカンの往来にも適用された。制定以前には、米墨国境管理ならびにメキシカンのアメリカへの入国は、連邦レベルの移民管理体制下におかれておらず、国境周辺の地域社会に組み込まれた住民の日常生活の一部と見なされていた。1917年移民法により、メキシコからアメリカへの移民の流入は、公的な統計数だけ見ると制定以前のおおよそ半数まで減少したとされる。⁵²⁾ そのため法律制定の影響がもたらす地域産業への影響は甚大であり、深刻な労働力不足に陥ることが問題視されたのだった。⁵³⁾

テキサスからの要請に応じて、連邦労働省は管轄下の移民局に対し、戦時の状況が続く限りにおいては、メキシコからの農業労働者に限り、法規定に満たない場合でも、必要に応じた裁量の適用を認める17年移民法第3条但し書き9項にならない対応するよう、関係機関職員に通達を出した。⁵⁴⁾ しかしテキサス州は、特例的な法の解釈ならびに適用を容認しつつ、法規定自体の検討は棚上げとした連邦の対応を不十分とした。

そこでさらに強く法律改正を要請するべく、1918年7月12日には、サンアントニオ (San Antonio) で、連邦各省のテキサス地域管轄役員、テキサス州全域からの各産業分野の代表、州防衛委員会役員、そしてメキシコ領事館の代表を交えて、メキシコからの労働力受け入れ体制構築を目指した会議が開催された。会議では各方面からの懸案が討議されたうえで、次のような見解がまとめられた。まず、労働力需要を満たすためには、現行の移民法の適用をメキシカンに対してのみ至急停止すること、それに代わり、移民法とは別にメキシコからの短期契約労働者導入体制を確立すること、そしてその場合労働者としてのメキシカンは農業に限定せずテキサスの各産業分野で受け入れ可能とすることが、満場一致の要望としてまとめられた。会議は、ワシントンの連邦労働局長官宛てに、上記要望をまとめた書面を通達して閉会した。⁵⁵⁾

知事として州防衛委員長の任にあったファーガソンも、全国的に政財界への根回しを図り奔走した。たとえば、テキサコ石油会社 (TEXACO Oil Company, Co.) の創設者で、第一次大戦中は連邦食品局の特別顧問も務めていたJ・S・クリナン (J. S. Cullinan) への電信の中では、メキシコからの労働力確保のために、連邦政府がメキシコ人移民に対する入国審査を一時的にでも停止すること、労働者として入国するメキシカンは決して徴兵の対象

⁵¹⁾ Letter from J. E. Natts to Judge O.E. Dunlap, Chairman State Council of Defense, 18 May 1917, Box2J355, Texas War Record.

⁵²⁾ Lawrence A. Cardoso, *Mexican Emigration to the United States, 1897-1931* (Tucson: University of Arizona Press, 1980), 46.

⁵³⁾ Letter from Department of Labor to J.F. Carl, Secretary of State Council of Defense, 18 May 1917; Letter from Department of Labor to O.E. Dunlap, Chairman of State Council of Defense, 18 May 1917, Box2J355, Texas War Record.

⁵⁴⁾ Letter from Department of Labor to Commissioner of Immigration, Inspectors in charge, and others concerned, 23 May 1917, Box2J355, Texas War Record.

⁵⁵⁾ Minutes of Conference, 12 July 1918, San Antonio, Texas, Box2J355, Texas War Record.

にならないことを広く浸透させるよう働きかけるように要請している。⁵⁶⁾ また、ウィルソン大統領に向けても、テキサスが求めるメキシカンは一時的に滞在する労働者に過ぎないため、連邦の移民政策に影響を及ぼす事案ではないことを繰り返し強調した。⁵⁷⁾

米墨国境線上のメキシカンの往来に対する1917年移民法の適用免除は実現しなかったが、同法第3条但し書き9項の規定適用が浸透することで、実際の制限管理は有名無実化していった。また、1918年に制定された出入国管理法 (the Entry and Departures Control Act) の適用においても、国務省は米墨国境地帯への特例として越境IDカードの発給を実施し、国境から10マイル以内の両国住民間の日常的な越境行為は許容された。⁵⁸⁾

結果として、戦時状況においては労働力としてのメキシカンの獲得が重要であることが浸透したわけだが、このことは、労働問題に限らずメキシカンの社会的位置付けにおいて重要な意味合いを帯びていた。1917年移民法に対するテキサス州からの要請から見えるのは、メキシカンに国家レベルでの移民問題と捉えるのではなく、移民ではない一時滞在労働者として社会に再度位置付け直そうとする動きであった。すなわち、戦時生産の重要な担い手たるテクサンが、従軍により国家への忠誠を示すアメリカ人と同義に語られるのに対し、メキシカンは必要な労働力を補うための一時的滞在者に過ぎない存在として、戦時下の危機的状況において統合されてゆく国民の枠から排除されていった。このことは、入国管理が実質無効化した移民管理とあいまって、テキサスにおけるメキシカンの社会的位置付けに影響を及ぼしていった。

戦時下の州政治において、アメリカ化運動もまた戦時生産と並んで重視された。運動は、外国出自の移民の同化だけでなく、戦争を通じた国民統合の総体として進められたが、その実践においては、国家レベルの指針に沿いつつ、地域社会の労働現場や教育機関、日常生活といった場における国民意識の醸成強化が重視された。⁵⁹⁾ テキサスにおいては特に、ヨーロッパ系移民集団としては最も人口の多いドイツ系が、アメリカ化運動の推進対象とされた。⁶⁰⁾

⁵⁶⁾ Telegram from Ferguson, Governor of Texas to J.S. Cullinan, 16 May 1917, Box. 380.31, Governor's Papers, James E. Ferguson, Texas State Library and Archives. このような連邦政府の働きかけは、州防衛委員会の活動の一環として重要性が強調された。Bulletin 42, Texas State Council of Defense, 19 September 1918, Box2J355, Texas War Record.

⁵⁷⁾ Telegram from Ferguson, Governor of Texas to President Willson, 29 May 1917, Box. 380.31, Governor's Papers, James E. Ferguson, Texas State Library and Archives.

⁵⁸⁾ Entry and Departure Control Act, Public Law 65, U.S. Statutes at Large 559(1918): 40; S. Deborah Kang, "Crossing the Line: The INS and the Federal Regulation of the Mexican Border," in *Bridging National Borders in North America: Transnational and Comparative Histories*, eds. Benjamin H. Johnson and Andrew R. Graybill, (Durham: Duke University Press, 2010), 178-85; Vicki Ruiz, *From Out of Shadows: Mexican Women in Twentieth-Century America* (New York: Oxford University Press, 1998), 12.

⁵⁹⁾ *Americanization*, Bulletin 17, Council of National Defense, 21 December 1918, Box2J358, Texas War Record; *Americanization in Local Organization and an Americanization Magazine*, Bulletin 112, Council of National Defense, 3 September 1918, Box2J357, Texas War Record.

⁶⁰⁾ Bulletin 56, Texas State Council of Defense, 16 December 1918, Box2J357, Texas War Record. 州防衛委員会設立時から、ドイツ系に対する言語教育と公共におけるドイツ語使用の禁止、メキシカンに対しては労働力として活用するためのスペイン語の有用性、そして黒人に対する従軍の奨励が活動指針の重要な項目として明記さ

ドイツ系の文化的特徴やドイツ語の使用は、非愛国的と批判される対象となり、アメリカ的な名前への改名やドイツ語教育の禁止など、強圧的なアメリカ運動の標的とされた。⁶¹⁾ とりわけ州議会内でファーガソンの弾劾運動が高まる同時期において、ドイツ系を非愛国的な集団と見なすアメリカ化運動の推進は、ドイツ系から支持を得るファーガソンを批判する効果的な材料としても用いられた。ただし、ドイツ系はアメリカ化を否定され、社会から排除されるべき他者とまでは見なされていなかった。⁶²⁾むしろ、アメリカ化の展開において、ファーガソンのビジネス指向の産業発展というシナリオが、ドイツ系にアメリカ化の契機と、それを友好的に受け入れる社会的風潮を浸透させた点が指摘できるだろう。⁶³⁾ 州防衛委員会が指導するドイツ系に対するアメリカ化の方針においては、英語を第一言語とするよう促す教育の問題が主に取り上げられており、それは暫時に改善可能な課題として取り組まれていた。そのため、都市部を中心にドイツ系は各コミュニティや個人のレベルで主体的なアメリカ化を早い段階から率先して展開し、移民エスニック集団として国民の枠内に組み込まれる契機を得ていった。⁶⁴⁾ ドイツ系の中には、州の法曹会で名の通る弁護士や判事も多く含まれていたが、地域社会において政治的経済的な地盤を有する彼らの多くは、自己の社会的地位を守るためにも積極的に「ドイツ系は出自がどこであれ生粋のテキサン」であり、「社会への完全な調和を求めるドイツ系を分離集団とせず、いかに社会に含み入れ得るかが、テキサスにおける真のアメリカ化の課題なのである」と主張した。⁶⁵⁾

その一方で、数的にはドイツ系をはるかに凌ぐメキシカンに対しては、移民集団に対するアメリカ化とは異なる方策が取られた。上記のドイツ系と比較すると、メキシカンに対するアメリカ化がどのように見なされていたのかが浮き彫りになる。まず、国家防衛委員会が提示する移民集団リストから除外されていたことから明らかなように、アメリカ化を経て国民に統合される移民集団としてはヨーロッパ出自が対象とされており、メキシカンは同様の移民集団とは認識されていなかった。⁶⁶⁾そして、先に論じたように、具体的なアメリカ化運動の現場となるテキサスにおいては、メキシカンは一時滞在者であり、かれ

れていた。Principal Activities of the Texas State Council of Defense, Texas State Council of Defense, 10 May 1917, Box2J355, Texas War Record.

⁶¹⁾ 第一次大戦下のテキサスにおけるドイツ系のアメリカ化に関しては以下を参照。Mark Sonntag, “Fighting Everything German in Texas, 1917-1919,” *Historian* 56, no. 4 (Summer 1994): 664-67.

⁶²⁾ Texas Applied Economics Club, *Social and Economic Survey of Southern Travis County, Texas*, University of Texas Bulletin 65 (Austin: University of Texas, 1916), 53-58.

⁶³⁾ Sonntag, “Fighting Everything German in Texas,” 655-70.

⁶⁴⁾ Letter from Fred Huggins to J. F. Carl, Secretary of State Council of Defense, 10 January 1918, Box2J357, Texas War Record.

⁶⁵⁾ Letter from W. A. Wurzbach, Attorney at Law, San Antonio to J. F. Carl, Secretary of State Council of Defense, 9 April 1918, Box2J394, Texas War Record. その他の地域のドイツ系有力者も州防衛委員会の進めるドイツ系に対するアメリカ化運動に関して、同趣の主張が数多寄せられている。例えば以下を参照。Letter from Kenneth Krah, Lawyer, Houston to J. F. Carl, Secretary of State Council of Defense, 24 June 1918, Box2J358, Texas War Record.

⁶⁶⁾ Committee on Public Information, Council of National Defense, “President Correspondence to the Resident of the United States,” 25 May 1918, Box2J394, Texas War Record.

らが担うアメリカでの労働は戦時生産に必要不可欠ではあるが、それはアメリカへの愛国心や忠誠の表れとは切り離されるというロジックが社会全体に通底していった。そのため、テキサス地域社会において、メキシカンの労働力を最大限有効に利用することは、アメリカ市民権やアメリカ化といった国民統合とは切り分けられて論じられた。このことは、メキシコ人移民の入国を移民管理の対象とみなさないだけでなく、ひいては、アメリカ市民権を有するメキシコ系アメリカ人が、アメリカ市民と移民とを含めた移民エスニック集団としての自己規定を選択し、戦時のアメリカ化を契機とした社会への同化を想定することを困難にもした。

このように、テキサスにおける戦時下のアメリカ化は、世紀転換期以降の急激な経済発展や人口動態の変化に伴い不安定化した人種関係を、国民統合のレトリックと結び付けて再規定してゆくプロセスとして進められた。州知事を罷免された以降も政界への進出をあきらめないファーガソンは、自身の政治活動の一環として発行する不定期刊行の新聞『ファーガソン・フォーラム (*Ferguson Forum*)』の中で次のような論説を掲載している。

アメリカ人のためのアメリカ、それはわれわれの状況に置き換えるとテクサンのためのテキサスということだ。そのためには、群れをなし国境を越えてくるメキシカンが減らさなければならない。…黒人との間には馬車や客車を分かち人種隔離の法律を有するわれわれであるが、メキシカンの騒乱を抑えつけるには、かれらとの分離もなされるべきだ。…良き市民になり得る性質において黒人よりも数段劣っているメキシカンに対し、黒人以上の権利を与えてはならない。…かれらは、真のアメリカ人になることを望んではいないし、決してそうはなれないだろう。⁶⁷⁾

上記の論説が掲載された1920年になっても、テキサスにおけるファーガソンへの草の根の支持は強く、地方を中心に、来たるべきファーガソン復活の日が待ち望まれていた。⁶⁸⁾ 政治文化の「改革」と戦時下のアメリカ化を連動させたファーガソンの一連の政治方策は、その後の州政治、ひいてはテキサスから全国的に浸透してゆく社会通念上のメキシカンの位置付けに作用してゆくこととなる。

おわりに

以上本稿では、1920年代以降の「メキシコ人問題」創出のプロセスを1910年代のテキサスの政治変容と戦時のアメリカ化の展開に求めて検討した。検討を踏まえ、再度冒頭で

⁶⁷⁾ *Ferguson Forum*, 18 November 1920.

⁶⁸⁾ 知事を罷免された後も、ファーガソンは1918年の州知事選、1920年の大統領選、1922年の連邦上院議員選に出馬し、活発な政治活動を展開した。1917年の州議会での決定に従い、その後の政治活動は、自身の代理として妻のミリアムを候補者に立てることで、1924年と1932年の知事選に勝利するなどの成功を見せた。州議会におけるファーガソン罷免の動きと、その後の政治活動に関しては、以下を参照。Bruce Rutherford, *Ferguson: The Impeachment of Jim Ferguson* (Austin: Eakin Press, 1983).

提示した「メキシコ人問題」を見直すと、その形成の背景として以下の点が指摘出来る。

1点目としては、「メキシコ人問題」の成り立ちが1910年代の移民の増加ではなく、より広範なテキサスの社会秩序の変容という文脈において成立している点である。移民の数的な増加が問題であれば、移民法を適用した厳格な規制が求められただろう。しかし先に論じたように、米墨国境線上の移民管理においては、労働力確保を可能とするような透過性が保たれた。そしてそのような例外的な法制度解釈と適用の背景としては、戦時生産を支える一大農業地域に成長を遂げつつあるテキサスからの強い要請が作用していた。このことは、その後1924年移民法で出身国別移民割当制度 (National Quota System) が導入される際も、メキシコからの移民がその数的制限適用から除外されるという展開につながってゆく。

2点目は、上記のような移民管理体制につながってゆくメキシカン他者化の背景として、資本主義経済構造に対応するべく変容する産業形態が、既存の人種・エスニシティ、階級格差のバランスを危うくしていたという側面である。政治学者のジュディス・N・シュクラール (Judith N. Shklar) は、近代アメリカにおける「地位としてのシティズンシップ (citizenship as standing)」の獲得において、生計維持手段 (earning) が重要な基準となってきたと論じる。⁶⁹⁾ そのため、雇用者に依存してのみ獲得可能な労働者の賃金所得は十分なシティズンシップの基盤とはならず、奴隷と市民との間の境界線上に位置付けられ、独立した市民としての社会的位置付けが疑われることにつながるという。本稿の議論を通じて明らかとなったのは、経済発展が引き起こす社会の変容で生じた、テクサン像の象徴ともいえる自営農民と労働者との間の生計維持手段にかかわる階級的境界が、白人を規定する人種の区分と一致しなくなりつつあるという、社会秩序の揺れであった。その揺れを留め、既存の人種と階級が交差した枠組の維持補填のための新たな境界線として、他者としてのメキシカンが社会内部に見いだされていったと言える。テキサスにおいて経済発展を主軸に進められた政治変革を通じて、メキシカンは短期滞在の賃金労働者に固定された他者として位置付けられていった。そこには、安価な労働力から利益を得ようとする経済的利害だけではなく、他者と引き比べることで、テクサン、言い換えるならばテキサスにおけるシティズンシップの再規定を図るという動機も指摘できるだろう。変容する社会、経済構造の中で、階級的、エスニックな差異を内包し得る伸縮性を帯びた「白人」市民の枠を想定するためにも、社会の内側に他者としてのメキシカンという存在が求められたのである。

3点目に、戦時下のアメリカ化運動の展開が、上記2点が連動する実践の場となり、以降の制度的な定着につながる契機となった点である。階級や人種の多様性を包摂する国民統合や移民の同化といった議論が立てられ、それとは対照的な社会内部の他者としてのメキシカンを位置付ける制度的ならびに日常的な実践が、アメリカ化運動というかたちで展開してゆく過程において、メキシカンの他者としてのイメージに社会的な具体性が肉付けされていったと見る事ができる。

⁶⁹⁾ Judith N. Shklar, *American Citizenship: The Quest for Inclusion* (Cambridge, Mass.: Harvard University Press, 1991), 63-101.

このように、「メキシコ人問題」は、社会、経済、政治状況の変容がもたらす、アメリカ人内部の階級や人種、エスニックの多様性を統制するための、共通の問題意識として創出されたといえる。そのため、メキシカンの位置付けは、国民統合や移民の同化といった議論から切り分けて固定化されていった。人種や移民の同化と切り分けられた階級的、社会的位置付けとは、果たしてメキシカンに何をもたらしたのか。1920年代以降に展開されるメキシカンによる多様な権利主張の試みは、繰り返しこの問いに直面し続けることとなる。